

古河電工がアルミ 電線の施工講習会

端末処理の技術体得

導体に関する正しい知識を持ち、接続時の端末処理を適切に行うことが必要となる。

古河電工はアルミ導体を使用した建設用電線の施工に関する講習会を始めたと発表した。軽量で柔軟性が高い低圧C.V.電線「らくらくアルミケーブル」の使用に当たり、電気工事の作業者に正しい端末処理の技能を伝えることが狙い。実施はらくらくアルミケーブルを製造する古河電工産業電線と共同。

らくらくアルミケーブルは軽量・高柔軟性からドラムの荷下ろしなどの運搬作業や、繰り出しや引き込みといった敷設作業の効率化に貢献する商材。効果を得るためにアルミ



講習会は1ヶ月ごとに実施する方針だが、顧客からの要望があればその都度対応を検討する。

講習会は座学と実技の2部制で、1回約3時間のカリキュラム。座学では古河電工の指導員が専用端子の必要性や腐食への対策、酸化被膜の除去などをテーマに解説する。実技では古河電工産業電線の平塚工場（神奈川県平塚市）内に設けたアルミ電線用の技能訓練センターで、指導員が作業のデモンストレーションを行なう。端末処理を行なう。座学・実技ともにテストがあり、合格者には修了証が発行される。